

朝来市デマンド型乗合交通実証運行- 生野町予約型乗合バス社会実験 実施報告書【概要版】

1. 社会実験の概要

運行主体	朝来市	運行エリア	生野町内全域
運行台数	2台	運行事業者	㈱ウイング神姫
運行期間	令和5年1月10日(火)～ 3月10日(金) ※水・日祝日は運休 実稼働日数：40日間	運行時間	7時～17時 (1時間に1便運行 最大10便/日)
予約方法	電話又はインターネットから予約	乗車料金	300円～400円
予約人数	433人	利用者数	416人(平均利用者数10人/日)

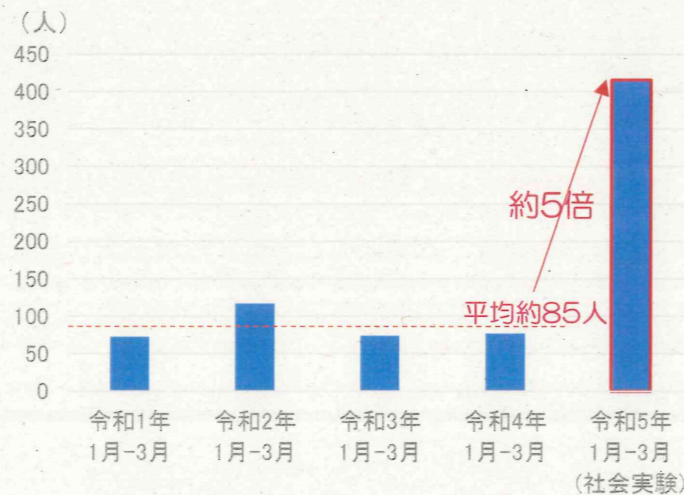
※1月26日(木)に大雪の影響により運休。



2. 乗車実績

【過去との利用者比較】

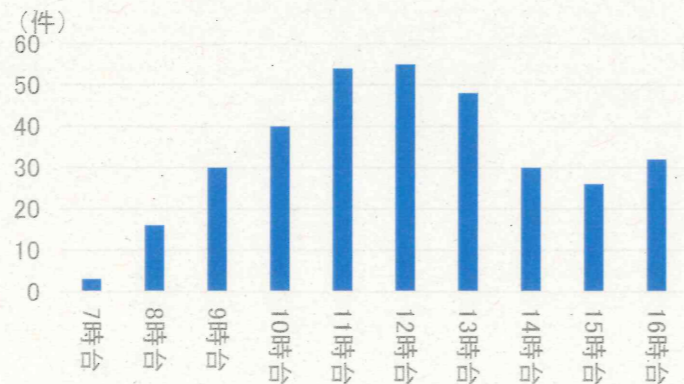
・過去4年の同時期の平均利用者人数(約85人)と比較して、今回の社会実験では約5倍の利用者人数となっており、高い効果があったことが確認できた。



▲ 過去同時期との利用者人数比較

【時間帯別予約件数】

・7時台の利用はほとんどなく、9時台から利用が徐々に増え、12時台がピークになっている。



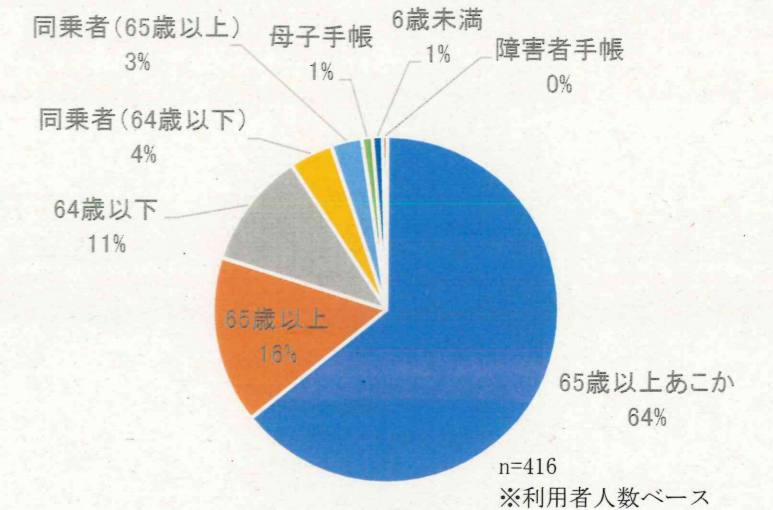
▲ 時間帯別予約件数

※予約件数ベース

【利用者の内訳】

・6割以上が65歳以上のあこか利用であった。あこか利用以外も合わせると、約8割が65歳以上の利用者であった。

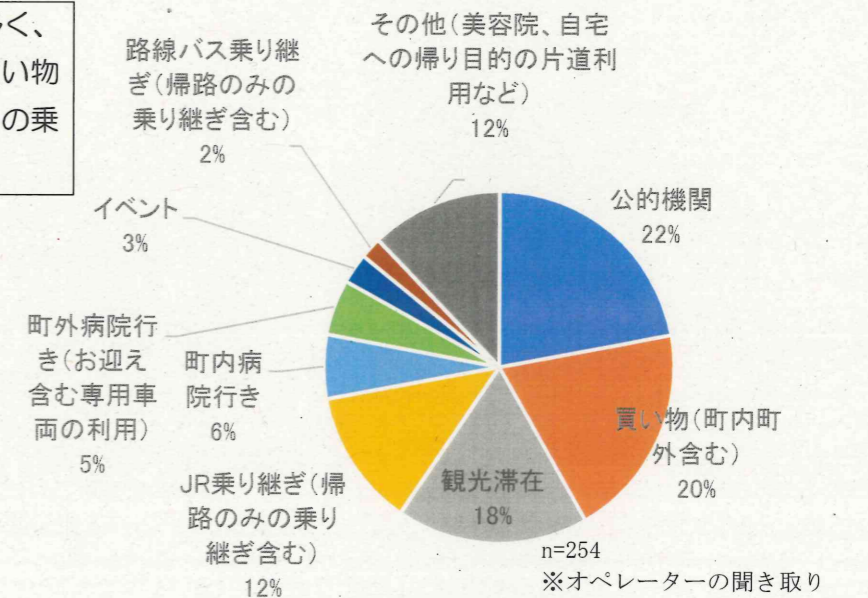
※65歳以上あこか：朝来市で実施している高齢者等優待乗車カード「あこか」の利用者
同乗者：複数人の利用があった際の、代表者(予約した人)を除く同乗者



▲ 利用者の内訳

【利用用途】

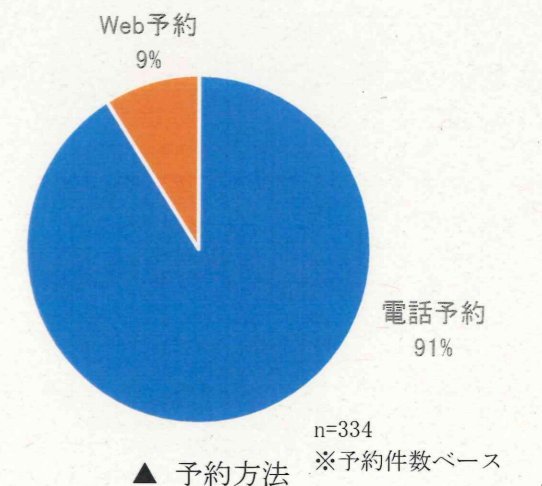
・役所や銀行など公的機関への利用が最も多く、約2割あった。次いで、ほとんど同数で買い物や観光での利用があった。他の交通機関への乗り継ぎも約1割あった。



▲ 利用用途

【予約について】

・約9割が電話での予約であった。利用者のほとんどが高齢者であるため、慣れていないことが原因であると考えられる。



▲ 予約方法

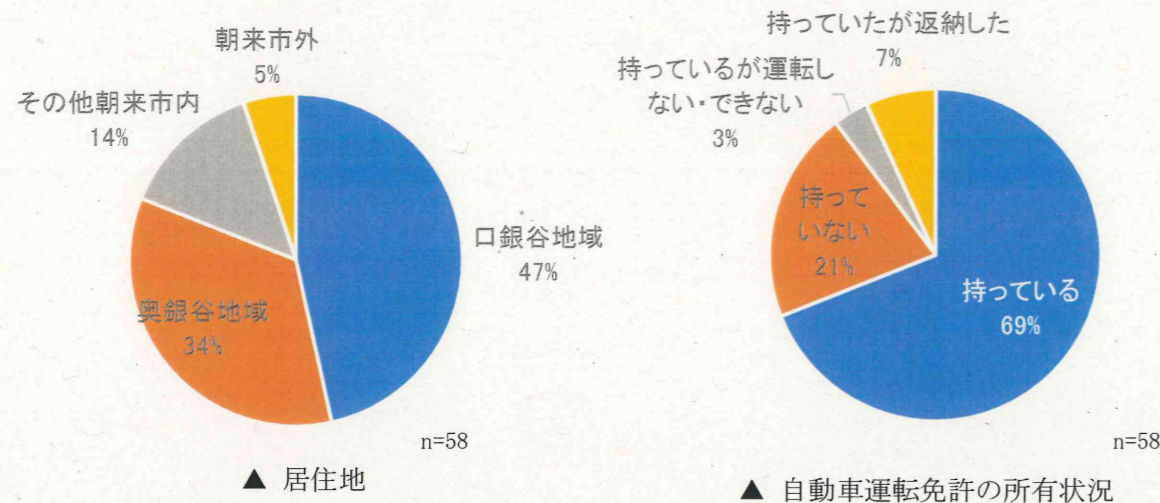
※予約件数ベース

3.アンケート調査

調査方法	バス乗車時に運転士より、アンケート調査票を配布。移動中等で記入してもらい、降車時にアンケート回収箱で回収。
対象	社会実験バスを初めて利用する方
回収数	58s

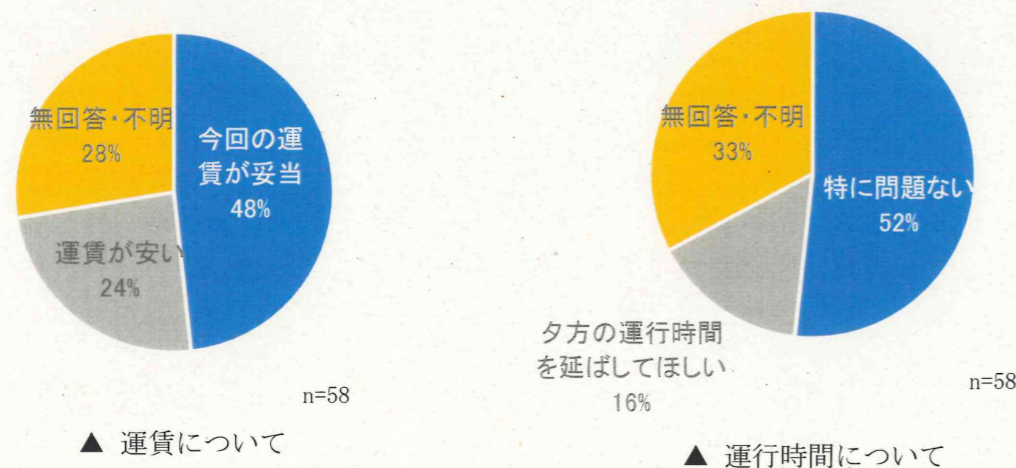
【属性】

- ・(居住地) 口銀谷地域が約半数。その他朝来市や朝来市外の方も約2割いる。
- ・(運転免許) 回答者の約7割が自動車運転免許を持っている。



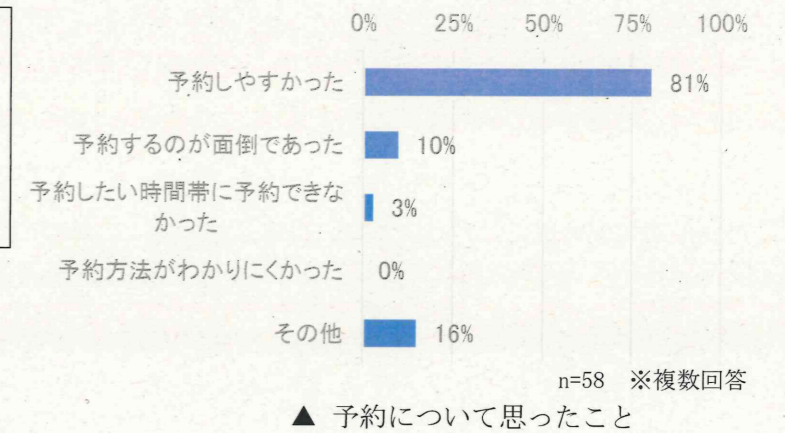
【運賃、運行時間について】

- ・(運賃) 「今回の運賃が妥当」という回答が最も多く約5割。「運賃が高い」という意見はなく、「運賃が安い」が約2割。「運賃」が安いと回答した人は500円が妥当であると回答している。
- ・(運行時間) 「特に問題ない」という回答が最も多く約5割。「夕方の運行時間を延ばしてほしい」という意見が約2割、概ね19時ごろまでの運行と回答している。



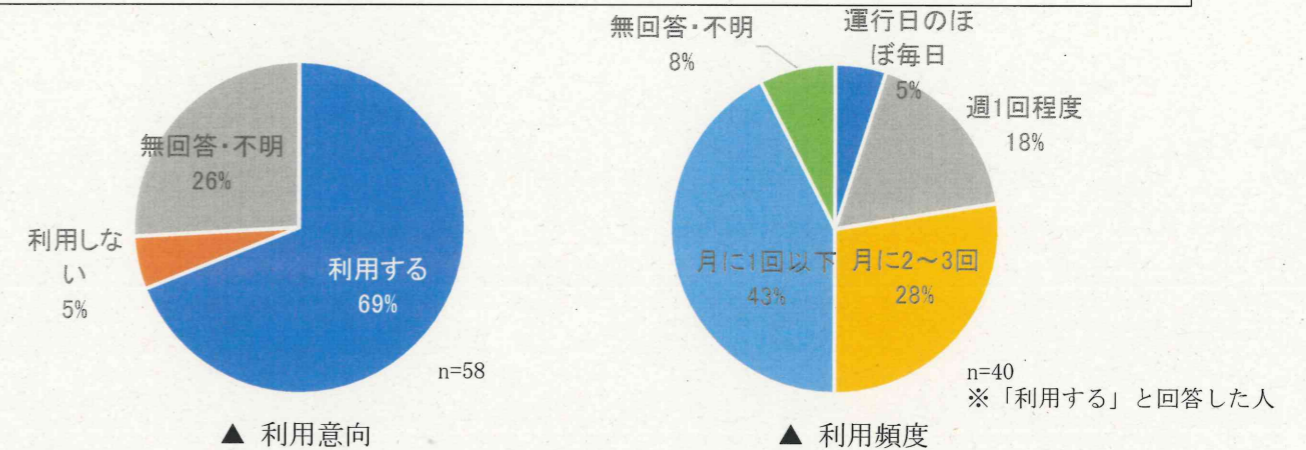
【予約について】

- ・予約については、約8割が予約しやすかったと回答。
- ・その他の回答としては、「電話することを忘れてしまう」「予約時間を忘れてしまう」等の意見があった。



【今後の利用意向】

- ・ほとんどの人が今後も「利用する」と回答。
- ・利用頻度は、「月に1回以下」が最も多く約4割、次いで「月に2~3回」が約3割。
- ・「利用しない」と回答した人は少なく、理由としては、「予約が面倒・わかりにくい」「今は必要ないが、将来的に必要」といった回答があった。



4.まとめ

- ・今回の社会実験では、平均10人/日の利用、最大で30人/日の利用があった。過去(従来の定時定路線の運行)と比較して利用者数が多くあり、利便性・持続性の面から本実験の運行形態が有効な手段のひとつであることが確認できた。
- ・利用者のほとんどが高齢者で、自動車を運転しない人の移動手段になっていることはもとより、自動車を運転する人の利用も多く、地域の移動手段として役立っている。学生や子育て世代などの若年層の利用が少なかったため、そのような他の年代の方の利用に向けても、今後検討していく必要がある。
- ・生野地域住民以外の来訪者の利用もあり、観光でも利用されている。観光面も視野にいれ、周知方法等検討していく必要がある。
- ・予約方法については、電話での予約がほとんどであった。インターネット予約の、わかりやすい予約方法(マニュアル、説明会等)の検討が必要である。
- ・朝7時台の利用者はほとんどおらず、運行時間は「特に問題なし」という意見が最も多かったものの、夕方の運行時間を延ばしてほしいという意見も挙げられており、運転士の勤務時間などの制約を踏まえ、より需要に合わせた運行時間を検討していく必要がある。
- ・利用頻度としては、高頻度ではないものの、ほとんどの人が今後も「利用する」と挙げられている。
- ・「利用しない」と挙げた人の理由としては、「予約が面倒・わかりにくい」「今は必要ないが、将来的に必要」といった回答であった。予約への抵抗を減らす方法の検討や地域の意識醸成を行っていく必要がある。